

地域密着型でなければ、活性化は難しい  
特定非営利活動法人らくさいライフスタイル 村下 恒雄さん

「戻ってきた街を元気にしたい！」と思って始めた活動が、少しずつ広がり、活動するメンバーも増えてきた気がします！（村下さん）



特定非営利活動法人らくさいライフスタイルは、洛西ニュータウン内の住民、ボランティア活動団体、施設運営者、農業従事者、まちづくりの専門家等の多様な方々と取組をスタートされました。

大きな投資に依存した施設再編ではなく、洛西地域に暮らす方々への生活提案やコミュニティ形成のお手伝いを通じて「タウンセンターの魅力創りと持続的な再生」につなげ、地域住民の利便性向上と地域経済の活性化の促進に寄与することを目的に活動されています。

今回は、創生推進委員会や他団体と取り組み始めているという「タウンセンターの活性化」事業についてお話を伺ってきました。

■現在の活動内容を教えてくださいか？

現在は、コミュニティの創出、買い物サポート、大原野やさいのブランド化に関する取組を行っています。

具体的には、コミュニティの創出に向けて「コワーキングスペースらくさい」を運営し、ニュータウン内で多くの時間を過ごす人達が集い、自分たちの仕事だけでなく、多様な視点から街のことも考えて取り組む人材の発掘を行っています。

買い物サポートでは、ボランティア団体等と協働し、タウンセンターに来店された高齢者や子育て世代を対象にした買い物付き添い、託児サービス、荷物持ちなどのお手伝いをしています。

大原野やさいのブランド化については、大原野・大枝地域と連携して農業体験や地場食材を使った料理体験・食育セミナーなどをプロデュースしています。



### ■ 活動を始めたきっかけは？

私は、30歳の頃にニュータウン内のマンションに入居しました。そして、退職後に落ち着いて街で暮らしてみると、いつの間にか昔の賑わいがなくなり、子どもは激減、高齢者が目立つ街に。「これは何とかしないと」と思い、まちづくりグループに入ったことがきっかけです。

そこで議論を繰り返していった結果、高齢化対策だけでは衰退は止められないと考え、若者が住みやすい街を目指して取り組み始めました。

### ■ 活動を開始してから、どんな展開がありましたか？

コワーキングスペースができてからは、子育てママや高齢者の方など、いろんな人が足を運んでくださるようになりました。地域にはいろんな方が住んでいて、固有の能力をお持ちだったりするので、そういう方とお会いすることでどんどんとアイデアが湧いてきたりします。また地域のコミュニティや団体と知り合う機会も増え、それをつなげていくようなイメージが生まれています。



■ 運営をしていく中で、大事にされていることなどはありますか？

プロジェクトを進めていくうえで、どの時点から関係者に関わってもらうかということ意識しています。みなさんの力を少しずつつなげていくと大きな力になるということが前提にあります。事業の初めから入ってもらうのではなく、事業の組み立てや小さな決め事と役割の分担については、ある程度のことまで私達が決めていきながら、全体でやりたいことを、皆さんにお話しておく。

そして実際に行動に移していくときに、いろいろな人達と手を取り合いながら進めていくというのが、ひとつの連携の際に大事にしているポイントです。

■ 今後はどんな展望を考えていますか？

まずは、いろんな方々に訪れてもらって話をお聞きすることと、こちらから出かけて「街に対する意見」を聞きながら、これからの洛西ニュータウンに対する考え方を可視化していきたいと思えます。

その中で、地域住民や各種団体、大学生等と協働してプロジェクトを進める中で、企画とデザイン提案を当法人が担っていくことができればと思っています。

